

旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会 第3回 会議録（概要）

日時 令和2年(2020) 1月31日 14:00~15:50

場所 中野市市民会館 41号会議室

1 開 会

欠席：市村良三委員、桜井昌季委員、藤澤一彦委員、牧良一委員、半田志郎委員

2 あいさつ

三木会長

3 議事

(1) 意見等の論点整理及び提案書の構成案について

意見等の論点整理（資料1）及び提案書の構成案（資料2）について事務局から説明

会長：

論点整理について、不足しているとか付け加えた方が良かったといったことがありましたらご発言いただきたい。

委員：

不登校や発達障害の子どもたちの次の学びの場として、定時制高校もだが、多部制・単位制や通信制もある。また、この北信地域には、豊野高等専修学校がある。豊野では、いつもカウンセラーが隣にいて励ましてくれたり、きめ細やかに相談に乗ってくれたりして、子どもたちがやる気を取り戻している。中学卒業後の居場所として重要な役割を担っている。

会長：

中学から高校へ進む以外の道についても提言することが大切だと思う。

委員：

総合学科や総合技術高校を卒業して直ぐ地域に役立つ人材の育成も大切だが、高校卒業後、30年40年して会社や地域を背負って立つ時に役立つものとして、文学や音楽といった人間性を広げて行けるような、文化的な教養を身に着ける教

科も必要になっていくのではないか。

委員：

立志館では、地域の人材、民間の人を講師にお願いし、地域と一体となった気持ちを持ってもらうような取り組みをお願いしたい。中野西は、環境教育とSDGsを関連付けた教育や、かつて英語科があったが、国際化に向けて外国語教育、例えば第2外国語も学ぶといったような、新しい視点を取り入れて、特色を出していただきたい。

委員：

これまでの論点として、3つあるのかと思います。一つは、地域のリーダーとして育てる進学校が必要であるということ。二つ目は、地域の産業界に寄与する職業高校があるということ。そして、中学では力を発揮できなかった人にもちゃんとした受け皿があるという、この三つが旧第2通学区には必要だということだと思います。先日高校のPTAに参加したが、いい大学に入るためにこの3年間は何をすればいいのかという圧力が非常に強かった。おそらく今後統廃合が行われる中で、特色を出していかなければということが背景にあるのだろうとは思いますが、それが素晴らしい人材を育てることにつながるのかという点については、一抹の不安がありました。

委員：

最終的にこのエリアに戻って来たい、この地域に貢献したいといった人材を育てるためには、環境とか楽しさといったものを、大人が見せていくことが必要になるのではないか。親の立場からすると、子どもがどこの高校に入れるのかということが一番。魅力ある高校、ここに行ってみたい、ここで学びたいといったことを、地道に知らせていくことが必要になるのではないか。旧2通の外に目が向きがちな状況がある中で、何とか早急に魅力づくりを。

委員：

専門高校は、地元企業と深く結びついて、入学から卒業までインターンシップ的な形をとって、地元の企業が人材を育成し、地元で採用するといったかたち。また、文化面など地域の良さなども地元で教え、イベントにも参加するような、そんな専門高校を育てていただきたい。

会長：

講師など、外から呼ぶことを考えがちだが、地元の良さを知ってもらうためにも、地元のことを良く知っている地元の人に学校で教えていただくことも大事なことだと思う。

委員：

中学には多様な支援を必要としている生徒が多くいる。「頑張ろう」「自分自身を変えよう」と思うが、人間関係を築くことが得意でない生徒もいる。学校に行きたいけど行けない生徒もいる。そうした子どもたちも高校につながる、安心して学べる形があればいいなと思う。子どもの良さを認めつつ、その力を伸ばせるように、教員もしっかり研修を積んで、力量を高めていかないといけない。

委員：

それぞれの高校がどんな学びの場を作っていくのか、中学生や保護者、地域の方々に知っていただき、地元の生徒が地元で育つ高校づくりに取り組まないといけない。高校を卒業した生徒が地元で活躍する、また、地域を離れても戻って来て地域を支えていく。各校は多様な学びを作って、特色を地域にアピールし、新しい高校を作っていく方向で議論していただきたい。

委員：

高校生に、学校を選んだ理由やどういう学校に行きたいのか、将来はどうなりたいのか、アンケートのようなものがあれば、活かしていけると思います。

委員：

子育て世代として、子どもが少なくなっていることをとても感じている。高校を再編しなければという中で、高校を残したい気持ちは皆さんあると思う。今後の日程の中で、提案書はいつまとめて提出するのか。また、パブリックコメントもするが、少数意見を大事にしていきたい。年度でPTAの役員は代わってしまうが、どうまとめていただけるのか伺いたい。

事務局：

資料3の変更日程案のご質問をいただきました。パブリックコメントについては、今後2月から3月にかけて実施したい。本日、資料1と資料2についてご意見をいただいて、次回、パブリックコメントにかける内容をお示ししたい。資料3については後程説明させていただく。

委員：

住民説明会は人数が少なかったと思う。提案書には、たくさん希望を書いて県教育委員会に受け取っていただきたい。説明会はもう開かれないということですか。

事務局：

提案書について、直接住民の皆さんに説明することは考えていません。事前に説明会を開催したこと、代表の皆さんでしっかり議論してきたこと、パブリックコメントを行うということから、説明会は考えていません。

委員：

パブリックコメントに際して、メリット・デメリットも示してほしい。自分の出た高校だから残してほしいという方もいらっしゃると思うので。

委員：

スポーツ中心のクラスを作れないかと言う提案に魅力を感じた。全体で人数が減ることは見えているが、人数の少ない学校よりは、人数の多い高校の方がスポーツは全体に強いと思う。飯山高校が甲子園に行った実績を残した。実績を残すことによって、小学生、中学生はその学校に来たいなと思ってくれる。この先、高校の人数は全体的には減っていくのか。

事務局：

2033年までに、2017年に比べ（旧第2通学区内の中学卒業者は）520名減る予測となっている。

委員：

今現在は、20～30年前と比べてはどうなのか。

事務局：

データはないが、クラス数が減っているのは事実です。

委員：

中野西高校の場合だと、以前は8クラスだったが現在は5クラスになっている。

委員：

刺激があってこそ子どもたちも伸びるので、クラスを減らさない方向でやって

いければと思います。

委員：

総合学科、総合技術高校は必要だと思う。高校1年くらいで自分の将来像が明確になってくる中で、進路変更できる仕組みができています。学校になじめない子どもも、就労につながり社会に出ていける学校があればいい。

委員：

旧第2通学区の中でも、須坂市の高校と中野市の高校では立ち位置が違うと思う。須坂は、長野へ大量に行くし大量に入ってくる。特色があって良い高校だなと思えば、長野から大量に流入して来るという位置にある。中野市の高校は、比較的地元で充足していると思う。

具体的に、須坂東高校を創成高校に普通科として組み込む感じを持っているが、その場合、伝統ある高校なので、あれがかつての須坂東校だと分かった方がよいのではないかと思う。またその場合、須坂創成高校は総合技術高校と言うことですが、普通科もあることが分かる表現の方が良いのかと感じました。

会長：

普通科がほかの高校と一緒にした場合、普通科としての特徴を出してほしいという声も聞いている。例えば、海外へ留学しても単位が認めもらえるような特色のある普通科、福祉や介護なども学べるような、今までの普通科の概念ではないことも学べるようにすることも大切ではないか。

委員：

中野西高には、ユネスコスクールで植樹活動にお手伝いをいただいている。自然と触れ合う、地域の文化と触れ合う中で、地域の良さを知って、将来的には地域に戻って来ていただく取り組みも大事ではないか。そうした中で、区域の外からも人が来る、魅力的な学校づくりをしていただきたい。

委員：

県で進める高校入試改革は、それぞれの高校が特色を出して、子どもたちにアピールして子どもたちを集めることが特徴。提案書案の「子どもたちの夢をかなえる学びの在り方について」では、「地域としてこうあってほしいという希望」を出して行って、高校再編をしていくという方向が示されている。このかわりとして、県全体を見通して、この地域にはこういう高校、この高校にはこういっ

た特色、地域の希望をかなえた特色を持たせた高校を作っていく、こういう設計が先あって、新しい高校入試制度の改革が、特色を持たせて行われるのが段階なのではないか。

反対に高校側から見たときに、そういった特色あるカリキュラムや指導体制が組めるのか。先生方の意識の統一とか協力体制とか、多くの課題が残っているのではないか。

委員：

既存の高校のカテゴリの外にある高校はどういうものなのだろうと考えると、普通科というのはすごく曖昧な形であって、子どもたちのまだ将来はつきりつかめなくてという部分を担っている。時代の先にあるものは、今までにない普通科であったり、総合技術高校であったり、多部制・単位制だったりという観点から考えて、柔軟性がある、どの子の多様性にも耐えられるような形を作っていくからの入試改革。そういう流れではないのか。6・3・3制も含めて、外枠を広げていく考えで、可能性だけを見た形も残してほしい。

委員：

子どもたちが一人で自立して生きていける教育であってほしいと考えます。今までと同じ教育で画一的にやっていたはダメ。人生100年時代、一生自分の特徴を生かして働く時代。そのような時代に、そういう生き方を教育されているのだろうか。世の中に出た子どもたちが生きていけないようでは、また、社会から取り残されていくようでは、何にもならないと思います。これからは、一人ひとりが特徴を持って、自分で考え行動して生きていく時代、自分の特色を作っていく時代になります。そういう人間を作らなければいけない。そのためにはどういう教育をしたらいいか、突き詰めて考えていただければと思います。

委員：

創成高校の課題学習発表会に行ってきました。子どもたちがテーマを決めて発表したのですが、子どもたちの発表は、農業の中に工業や商業の学びが入り混じった発表でした。その中に共通していたのは、人と人がつながることが大事だということ結論付けることがとても多く、それを聞いていたら、例えば、人間性の育成とか文化的な教養とかを含めた、新しい形の特色ある普通科がもし創成高校の中に入っていたらどうなるのだろうと考えると、職業科とは違った化学反応が生まれて、学びの場が広がるのではないかと感じました。

会長：

職業科と普通科が一緒になった、和歌山県の高校出身の知り合いの話をお聞きしたところ、色々な価値観や考え方のある高校へ行ったことが、自分の人生や仕事にプラスだったということでした。また、今の時代、自立しているということはとても大切だと感じています。

委員：

大きな変革の中で求めている人材は、創造的人材、物事を自分で考えていける人材。教育の方針の中でも、探究的な人材など、自ら考えて課題を見つけ、それを解決していける人材をつくっていくと述べられている。それはJAとしても非常に欲しい人材。文化、産業など地元の特徴を理解しながら、大学を出ても戻ってきて、一緒に産業を作り上げていてもらいたい。また、議論の方向として、子どもが減っていくという部分がクローズアップされているが、地域の産業に貢献する人材を作るのが第一の優先事項で、一つの要因として人口減少もあるという作りこみの方が、すっきりするのではないかと思います。

委員：

今後15年とかの内に、2校分程度の子どもの数が減っていってしまう中で、再編はやむを得ないことかと思っています。旧第2通学区は、総合学科高校や総合技術高校、普通科と、特色ある高校がある地域になっている。今の子どもたちはいろいろな選択ができるようになっているが、この機能はしっかりと残してほしい。そうした中で、子どもたちにとって教育効果が最も上がるような規模をご検討いただきたい。

委員：

これまでの議論を振り返ると、対象となる生徒が減るので学校の統合等も考えていかなければという数の論理から、教育内容をどうしようか、魅力ある学校をどう作っていくか、これからの子どもたち、地域のためにという質の論理へ移っている。先般、協議会で視察させていただく中で、創成高校では農業科と工業科がコラボしてLEDで作物を栽培していた。集まることによって、創造的な新しいことが生み出せる。うらやましい。立志館の少人数教育は、大学の先生もうらやましいと言っていた。これから3つの方針で、それぞれ5つの高校のありようを追求していくということもさせていただく中で、将来この地域に魅力ある高校をどう作っていくかということを提言していきたい。ロジカルシンキングではイノベーションは起きないと言われていています。いろいろな意見があって、いろいろ

な人と付き合う中で、あれとこれとを組み合わせたら云々という議論が展開されるような高校ができればと思っています。そんなことができれば、この地域の外から学生がやってくる。旧2通の中では、須坂は長野から大量の高校生の出入りがある。中野市の二校は旧2通の中での学生の行き来で賄っている。そういうそれぞれの特徴を主張して、高校改革を提言していく必要がある。モチベーションの話で言うと、高校3年間の中で、イメージ、将来像を共有できるような高校。そのためには、総合学科、総合技術高校の「総合」という考え方が、地域の将来を占うものになるのではないか。

委員：

協議会は高校の将来像を話し合う場で、高校の再編ではない、時代に対応した新しい高校を作っていくという位置付けになっている。そういった中で、地域に生まれ育った子どもたちが、地域でどのように育っていくのか、どういう人材を育てるのか、そういう声が多かったように感じます。そのような高校を作るためには、中学生に選んでいただける高校になっていかないといけない。普通科においても特色を考えていかないといけない。最終的には、自立できる子どもを作るという方向で提言をまとめていただきたい。

委員：

立志館と創成を視察して、ユニークで特色があり、先生方も生徒も熱意を感じた。教育の中身は、総合学科と総合技術高校をベースにして、より磨きをかけていただきたい。地域の企業や識者とのつながりを強くしたり、様々なニーズに応えたりしていただくことで、より魅力ある高校が出来てくるのではないか。普通高校の在り方が難しい課題だと思う。

委員：

高校にどんな機能があればいいのだろう、それを最大限に発揮するためにどんな形があればいいのだろう、形にはいろいろな制約がある中で、私たちが一番いい形を探していくということだと思っています。資料中、「求められる高校像」に「社会人が学べる場所」がある。学校は子どもたちのためのものだが、地域のものでもいいだろうという中で出てきた。地域を担う人材が育ってほしいという視点。子どもたちが多様な学びができる、選択ができるようにということ、進路変更だとかデュアルシステムであるとか、総合技術高校の普通科、スポーツ科といった提案が出てきている。また、大きな視点として、子どもはだれ一人取り残すことがないようにという視点があった。網羅的に意見が出されているが、こ

れは大人の視点で出された意見。魅力ある高校とあるが、大人にとってではなく、子どもにとって魅力ある高校なので、パブリックコメントの中で子どもたちの声も拾えれば良い。

会長

子どもの声を聴くことについては検討してまいりたい。

(2) 今後の日程について

変更日程案（資料3）について事務局から説明。

年度切り替えに伴い、委員の選出母体の役員の異動等が想定されるが、これまでの協議の経過等があるので、協議会の終了まで引き続き委員をお願いしたい旨も説明し、了承。

会長

今後改革していく場合に、先生方が大変になるのではないかと。また、設備をしっかりと整える必要もある。先ほどもあったように、質の充実に移っていく必要があると言った場合に、財源の問題はどうなるのかと思っている。今のままの状況で、学校がいくつもあったとして、財源がしっかりと確保できるかどうか心配。教育について、財政的な問題を言うべきではないと言われるが、質の充実のためには、ある程度の高校の在り方も考えていく必要があるのではないかと。また、この地域は魅力的な地域なので、外から学生を呼ぶ仕組みづくり、PR等を行っていくべきではないかと。県立高校なので、県に任せておけばいいという考え方もあるが、地域の重要な教育機関でもあるので、支援したり協力したりして、自分たちの学校のつもりで一緒に作っていくことが大事ではないかと。皆様方から、自分の高校だという気持ちでご意見ご提言をいただいたことは、協議会としてありがたいと感じました。

4 その他

次回は2月を予定しておりますが、年度末で日程調整が厳しいこともあり、ずれることもありますが、ご了承をお願いしたい。